

別紙２ テーマ２の提案に関する施策推進状況

テーマ２：「世界に開かれた奈良づくり ―海外への奈良の情報発信や外国人観光客の誘致など―」

提案項目	提案要旨	回答課	施策推進状況
1 海外への奈良の情報発信 ―海外へ奈良の魅力を如何に発信すべきか―	1ー(1) 「国際総合奈良学研究センター」の設置を奈良県内には、文化財研究所や考古学研究所、万葉古代文化研究所、東大寺史研究所等が存在しているが、それらをつなぎ合わせる学際的な研究施設がない。「国際日本文化研究センター」のように、世界から研究者が集い、世界に発信していく総合的な研究施設が奈良にも必要である。奈良学を研究対象としている世界の大学教授や研究者、僧侶や神職、芸術家の人たちが出入りできるようにする。また、万葉世界賞を拡大させ、全奈良学ジャンルの研究者を対象とした「まほろば世界賞」を創設することを提案したい。	文化課	県では、本県の特長である文化的遺跡の保存・活用や万葉文化の普及を図るため、それぞれ橿原考古学研究所、万葉古代学研究所を設けて、文化財の発掘調査・研究並びに万葉集を中心とした万葉文化の研究を行っています。 奈良に関する文化や歴史等を幅広い分野で研究される「奈良学」について、県としては、「奈良学」を研究する方や学ぶ方に宿泊所や研修等の場を低価格で提供し、奈良学研究の推進を図るため、昭和 63 年に国際奈良学セミナーハウスを設置し、奈良学の研究等の支援を行っています。海外からの来訪者にも宿泊施設として、利用いただいています。また、奈良学の研究については、様々な形で取り組まれていることは認識しており、県内の一大学において、奈良学総合文化研究所を設立して、奈良の文化について研究するとともに、研究成果の発表や講演会など実施されていることも認識しています。 今後は、各組織で行われている奈良学の研究の動向等を見据えるとともに、貴重な意見も参考しながら、奈良学研究のさらなる推進を図っていきたくと考えています。 また、「NARA 万葉世界大賞」については、万葉集及び万葉文化の国際的な展開・普及に功績のあった研究者等を顕彰し、日本文化の再発見と新たな文化の創造を図るために設けられたもので、しかも平成 20 年に第 1 回目の表彰を行ったところです。「まほろば万葉賞」創設につきましては、今後の万葉世界大賞の推移及び奈良学に関する研究の動向に注視していきたくと考えています。
	1ー(2) 外国のメディアの招待を提案 2 年後に平城遷都 1300 年記念事業を控え、外国メディアに好材料を提供できる大きなチャンスである。メディアの人たちの心を捉えるには、感動的異文化体験をしてもらうことが大事であり、次の提案をする。 1) 招待のタイミングは、記念行事のある約 1 年前の 2009 年 4 月。遅くとも 11 月 2) 対象国は中国・韓国・台湾に絞るか、欧米メディアも含め、人数配分を考慮 3) 招待する人数は 5～6 人、多くても 10 人以内 4) 宿泊は旅館とホームステイ 5) 寺や神社を案内する時は、そこの著名な方に直々に案内していただく 6) 日本の原風景を想起させる所に案内し、地元の人達との触れ合いの場を設定 7) 一流の通訳ガイドを選び、徹底的に密着アテンド	平城遷都 1300 年記念事業推進局 国際観光課	2010 年は、「平城遷都 1300 年祭」の開催年であり、奈良の魅力を発信する絶好の機会であると同時に、国が提唱し、訪日外国人旅行者数を倍増させるために取り組む「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の最終目標年に当たることから、2010 年を契機とし、その後も継続的に海外からの旅行者の増加に結びつけられることを目指して、奈良県と平城遷都 1300 年記念事業協会が緊密に連携しながら、外国メディアを活用した情報発信などに取り組んでいきたいと考えます。 特に「平城遷都 1300 年祭」に向けては、平城遷都 1300 年記念事業協会において、中国（上海、西安等）、韓国（忠清南道、ソウル等）との相互交流事業の実施を進めながら、交流の気運の盛り上がりを図っていきたくと考えています。 そのため、海外の旅行業者などを対象に事業説明会を行うほか、相互交流事業を交流先の現地のマスコミに取り上げていただけるよう努めていきたくと考えています。 また、外国メディアに積極的に奈良を紹介することは、海外における奈良の認知度を高め、ひいては奈良への観光客誘致につながることから、意義あることと考えています。 県では、県内や関西で開催される国際会議などの機会を活用し、外国メディアを対象にしたファムトリップ(下見旅行)を実施するとともに、国際観光振興機構(JNTO)などが招請した外国メディアの取材に対して協力・支援を行っているところです。 外国メディアの取材に際しては、世界遺産をはじめとする観光資源を紹介するとともに、

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
	1ー(3) 奈良県庁のホームページ外国語版の改善提案 奈良県庁のホームページ（外国版）について気づいた点について、次の改善提案をする。 1) 英語版の更新日は2006年12月、また「Tourism」のトップページのデータが2003年2月現在となっており、早急なアップデートが必要 2) 「Information before coming」の項目を追加し、海外の観光客がインターネットで事前情報を得やすくする。京都府のホームページが参考になる 3) 「Transportation Access」の項目に関空と伊丹空港からのリムジンバスサービスが記載されていないので、記載が必要 4) 「Accommodation」の項目にホテル及び旅館の住所、電話／ファックス番号等の情報の入ったリストを載せることを提案。英語のホームページを持っているホテル等とのリンク、地図で宿泊先の住所の確認ができれば、より親切だ。	国際観光課	日本文化を体験いただくなど、奈良の多様な魅力をPRしています。また、外国メディアの取材目的に応じて、社寺関係者や観光ボランティアガイド等に案内を依頼し、奈良を十分に理解いただくよう努めています。 外国語版観光ホームページによる海外への情報発信については、過去の調査やホームページのアクセス件数などから、その重要性を認識しています。 そこで、今年度、新規事業として「インターネットによる外国語「奈良情報」発信事業」を実施し、既存のホームページを全面改訂します。 コンテンツについて、「(1)常にホットで新しい情報を発信し、奈良の魅力をアピールする。(2)各国国民の嗜好に応じた、県内の宿泊観光に結びつく観光ルートを提案していく。(3)滞在型観光につながる伝統工芸体験、グリーンツーリズム、観光産業など、新しい観光情報を発信する。(4)マップ、アクセス情報、観光資源情報、提案ルートを有機的に連携させ、外国人観光客にわかりやすい動線を提示する。」など、提案のあった具体の事項についても参考にしつつ、質、量ともにより充実したホームページの作製を進めているところです。
2 国際交流の積極的推進	2ー(1) 奈良に新しい国際交流の風を 日本の文化に魅了され、深く関わっている海外の人は非常に多い。生け花、茶道、陶芸、尺八、盆栽、囲碁等の日本の伝統文化を対象にした文化交流の輪を拡げる努力をしてはどうか。また伝統文化に限らず、教育や音楽等の世界共通の分野における文化交流の輪を拡げることも新たな奈良ファンづくりに貢献する。また、その際にホームステイと組み合わせれば、一層効果が期待できるのではないかと。 2ー(2) ホームステイの勧め 外国人観光客は、単に観光地を見て回るだけでなく人との交流や文化交流が加わることで、印象が深まりリピーターにつながる。世界に開かれた奈良づくりとして、国際的な活動を活発にすべきである。ホームステイは、日常生活に直に触れていただくことで、単なる観光では得られない人間的触れあいやその土地でしか得られない	国際観光課	奈良の魅力、日本の文化を活かして、世界に奈良ファンをつくることは大切であると考えており、本県においては、次のような施策を展開しています。 奈良にゆかりのある外国人等を「奈良まほろば大使」に委嘱し、奈良の魅力、日本の文化や平城遷都1300年祭等を世界各国でPRしていただいています。平成20年3月末現在、36ヵ国275名の方に委嘱しています。 また、在京大使館等の各国政府機関関係者を代官山iスタジオへ招待し、茶道や書道等の伝統文化の体験、及び仏像写真の展示等により奈良の魅力を紹介しています。 さらに、平成21年度には「ユネスコ東アジア子ども芸術祭」をユネスコ等と共催で本県で開催し、東アジアの子ども達による舞踊・音楽・伝統芸能披露等文化芸術の交流を実施します。この芸術祭では、芸術文化交流の他、ホームステイ交流の実施も検討しています。 地域の国際交流を推進するにふさわしい中核的民間国際交流組織として総務省から県内で唯一認定を受けている（財）なら・シルクロード博記念国際交流財団が、ホームステイ・ホームビジットの受入れあっせんを実施しています。平成20年3月末現在、ホストファミリーとして127家庭が登録しており、平成19年度のあっせん実績は24カ国105人です。 このような草の根の国際交流活動を実施している同財団に対し、県は人的・財政的支援を行っており、県民と外国人との相互理解、地域における国際交流の促進を図っています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
	貴重な体験をしてもらえる。その結果、滞在が印象深くなり、友情が深まり、奈良ファンを世界に広げるきっかけになる。このような地道な草の根の国際交流活動を積極的に評価し、奨励してほしい。相手側の知事や市長の親書を携えてくるグループに対しては、表敬訪問を受けるなどの対応を積極的にすることを提案したい。		また、表敬訪問に関しては、従来より、相手側の希望に応じて対応することとしています。
	2－(3) 教育者の国際交流 教育問題は日本だけでなく全世界的なテーマであり、共通項が多い。そこで、学校の先生同士の、ホームステイを伴った国際交流を実現してほしい。その際、奈良の特徴を活かした世界遺産学習と国際理解教育をテーマにした交流を提案します。ホームステイは人間同士の触れあいを直に感じることの出来る有効な手段であり、全世界にクラブを有するホームステイ組織と連携すれば、プロジェクト推進の大きな力になる。	教職員課	国際交流の一環として、教職員海外派遣制度を設けています。教員研修センターの事業である、教職員等海外派遣研修（３ヶ月）及び教育課題研修指導者海外派遣プログラム（２週間程度）に、奈良県の教員を受講させています。 教職員等海外派遣研修では、ホームステイをしながら、派遣国の学校において定期的・継続的に授業を実践したり、教育関係機関等の訪問により教育制度等に関する情報収集や意見交換等を行ったり、大学等での高度な授業や交流活動に参加して研修を深めています。 教育課題研修指導者海外派遣プログラムでは、ホームステイは行いませんが、様々な教育課題について先進的に取り組んでいる諸外国に派遣し、派遣国の教育関係機関・団体において調査・情報収集を行い、学校において授業や児童・生徒の日常活動を視察するとともに教職員等との意見交換や情報収集を行っています。
3 外国人観光客の誘致 一魅力ある奈良づくりのために	3－(1) 近郊都市との連携による新たな観光開発 ＵＳＪや繁華街の楽しみを備えた大阪府と、世界遺産や静寂が売りの奈良県が手を携え、観光プランの中で相互補完ができる手だてを考えてはどうか。また、中国人観光客等を対象にしたショッピングと観光をミックスしたプランも効果が期待できる。例えば、東大寺、奈良町、イオン高の原の組み合わせ、明日香村、今井町、ダイヤモンドシティの組み合わせも一案である。 3－(2) 多様な観光プログラムの開発を 古都奈良の特性を生かした寺社巡りに加え、地域イベントや伝統産業、人々の暮らしぶり等を組み合わせた異国情緒を味わえる観光プログラムの開発を考えてみてはどうか。奈良歴史ウォークなどを組み込んで面白い。また、春・秋の観光シーズンだけでなく、東大寺のお水取りや高取の雛人形飾りイベント等をプログラムに組み合わせれば、冬の季節でも観光開発が可能になるのではないか。PRの仕方次第では新たな観光誘致になる。	国際観光課 ならの魅力創造課	他府県と連携しての広域的な外国人観光客の誘致については、国のビジット・ジャパン・キャンペーン事業を活用し、関西の府県などで構成する関西広域機構と連携した観光プロモーションやテーマや対象国ごとに近隣府県等と連携してのプロモーション活動を展開しています。 種々プロモーションを実施する際には、寺社仏閣のみならず、温泉、登山、ショッピングなど、各国国民の嗜好に応じた観光資源のPRを行っています。 本年７月に実施した中国・上海の旅行会社を招請してのファミトリップ(下見旅行)では、神社仏閣だけでなく、大型ショッピング施設や体験型の施設も行程に盛り込み、県内の多様な観光資源をPRしたところです。 奈良は四季折々の豊かな自然を味わうことができるとともに、お水取り、燈花会など季節毎の伝統行事やイベントを楽しむことができる場所であり、その点が外国人観光客を誘致する際にも大きな魅力となると認識しています。 そこで、奈良県知事トップセールスをはじめとする観光プロモーション活動においては、奈良が有する豊富な観光資源とともに、季節毎の伝統行事やイベントも積極的にPRしています。また、海外の旅行会社を招請してのファミトリップ（下見旅行）では、大茶盛り、座禅などの体験型の観光資源も紹介しているところです。 平成20年度より旅行商品造成促進事業として、県内の観光資源を新たに発掘し旅行商品を造成し、観光誘致を図っています。また、今年度農林漁業体験民宿創出支援事業として、農山村の素朴な魅力が体験できる事業にも取り組み、地域の魅力を発掘し、宿泊観光の増加を図っています。さらに宿泊を促す地域の魅力づくりに取り組むNPO等への支援も行っています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
	3ー(3) 農業観光（アグリツーリズム）の提案 県内で独自の農業経営で成功している農家等とタイアップして、周辺の歴史的な建物とか伝統行事や特産物を総合的にコーディネートして、新たな形の観光として開発してはどうか。大和郡山の金魚養殖等も一つの例として面白いと思う。	農地活用推進課 農業水産振興課	「奈良グリーン・ツーリズム」を推進しており、農業に限らず、農山村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動として広くとらえ、農林業農山村体験施設や直売所等についてホームページにより情報発信を平成16年度から実施しています。 また、農山村地域で宿泊を含む体験（滞在型）を促進するため、受け皿づくりとしての農家民宿開業講座を開催(H17年度～)。H20年度からは受入地域づくりとしてモニターツアー実施等に取り組む市町村の支援を実施しています。 大和郡山の金魚については、金魚養殖業の経営安定を図るため、生産性向上等に取り組む事業に支援を実施しています。
	3ー(4) 有能な外国語ガイドの養成 奈良の観光のみならず、仏像や神社仏閣、建築、更には日本文化全般について、外国語でガイドできる人の数は極めて限られているのではないか。正しい情報を分かりやすく、また楽しく話せる外国語ガイドが沢山いるところとなれば、奈良に魅せられる外国人の数は大きく伸びる。県でボランティアガイド養成研修会が行われ、大学でも社会人を対象にガイド養成講座を実施されているが、研修会や講座を修了しても実際に活躍する場がないという現状が報告されている。今のままでは、平成遷都1300年記念事業の年にきっちり訓練された外国語ガイドが大幅に不足する懸念があり、有能な外国語ガイドの養成が急務である。そこで、次の提案を行う。 1) 県又は平成遷都1300年記念事業協会が、適切な推進母体に委嘱して、外国語ボランティアガイド養成のための特別研修プログラムを作り、現場で即活躍できるガイドの養成を図る。養成に際しては現場経験の豊富な講師が指導する。 2) 県独自に「通訳ガイド国家試験」の奈良版のような検定資格制度を確立する。これにより、ガイド要員の裾野を広げるとともに、レベルアップを図る。有資格者には有料でガイドできる道を開く。 3) 有資格者ガイドやボランティアガイドのリストを作成し、ホームページで公開するなど、外国人観光客が利用できる仕組みを作る。これらの提案を具体化するには、まず県がボランティア精神を持つ人たちに活躍する場を提供することの重要性を認識し、積極的に解決のための取組を示すことが大事である。	国際観光課	外国人観光客の「おもてなし環境」の充実を図るうえで、外国語観光ボランティアの拡充は重要であると考えています。 県では、平成18、19年度に「外国語観光ボランティアガイド養成研修」を実施し、347名の方々に受講いただきました。研修においては、社寺関係者等による奈良の歴史・文化などについての講義を行うとともに、観光ボランティアガイドを講師として県内の主要な観光地での実地研修を実施いたしました。 今年度は、新規事業として実施する「インバウンドもてなし研修」において、通訳案内士やボランティアガイドを対象に、奈良と中国・韓国とのゆかりを中心とした研修を実施し、奈良を訪れる外国人観光客により深く奈良を理解いただけるよう、「おもてなし環境」の充実を進めます。